

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00432

研究課題名(和文) 18世紀イギリス公共圏におけるトラベルライティングと感受性に関する歴史的研究

研究課題名(英文) The Historical Study on the Relations between Travel Writings and Sensibility in the Eighteenth-Century British Public Sphere

研究代表者

吉田 直希 (Yoshida, Naoki)

成城大学・文芸学部・教授

研究者番号：90261396

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：長い18世紀の転換点に位置するローレンス・スターンの『センチメンタル・ジャーニー』が世紀前半のテキスト群をいかに翻案しているかを旅行者の分類がもつ政治的意味とともに歴史的に検証した。また、旅行者の移動が意味する経済的諸問題をイギリスの財政＝軍事国家論との関わりを軸に考察した。さらに、社交空間と消費空間の構造分析をグローバル市民社会の誕生に関する歴史研究に接合して、コーヒーハウスにおける印刷出版文化、スティールやゲイの劇作品、フィールディングの小説作品に応用した。その上で、研究総括として1760年代のトラベル・ライティングの影響の下に生まれたゴシック小説の超自然表象の歴史的考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、トラベルライティングの分析にあたって、作品に登場する旅行者の身体/精神の相互関係を長い18世紀の文学史に沿って検討した点に認められる。コーヒーハウスにおけるパンフレット文化、世紀前半の劇作品、さらには中葉のリアリズム小説を視野に入れて時間的・空間的移動が表す多様な文化的意義を明らかにした。とくに、旅行者の人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティに注目することで、身体/精神の相互関係を多面的に描き出すことができた。さらに、長い18世紀におけるイギリスの財政＝軍事国家の誕生を21世紀の歴史化に接合する可能性を示すことで、イギリス文学研究の今日的意義を表す研究となっている。

研究成果の概要(英文)：Laurence Sterne's "Sentimental Journey," which is located at a turning point in the long 18th century, is historically examined in terms of how it adapts texts from the first half of the century, as well as the political significance of the classification of travelers. I also examined the economic issues that travelers' movement implies in relation to the argument on British fiscal-military state. Furthermore, the structural analysis of social and consumer spaces was combined with historical research on the birth of global civil society, and applied to the printing and publishing culture in the coffeehouses, the dramatic works of Richard Steele and John Gay, and the novels of Henry Fielding. The research was then summarized with a historical examination of the supernatural representations of the Gothic novel that emerged under the influence of travel writings in the 1760s.

研究分野：英文学

キーワード：トラベルライティング 公共圏 財政＝軍事国家 イギリス ゴシック小説

## 1. 研究開始当初の背景

18世紀イギリスでは、小説という新しいジャンルにおいて次々と旅行記が書かれるようになった。それらを歴史的な文脈の中で捉え、階級や人種、ジェンダーといった問題と絡めて解釈する研究は重要であり、これまで一定の成果を上げてきた。しかしながら、旅の持つ意味がこの時代どのように変化し、その変化が文学作品の表象にどのような影響を与えてきたのか、あるいは文学が旅に対する読者の意識にどのように作用していたのかを「長い18世紀」の流れの中で通時的に検討する理論的枠組みは未だ提示されていない。それらの問題を歴史的な文脈の中で捉え、階級や人種、ジェンダーといった問題と絡めて解釈する研究は重要であり、これまで一定の成果を上げてきた。しかしながら、旅の持つ意味がこの時代どのように変化し、その変化が文学作品の表象にどのような影響を与えてきたのか、あるいは文学が旅に対する読者の意識にどのように作用していたのかを「長い18世紀」の流れの中で通時的に検討する理論的枠組みは提示されていなかった。

## 2. 研究の目的

本研究は、ロレンス・スターンの『センチメンタル・ジャーニー』(1768)を一つの転換点と捉え、世紀前半の旅行記に表象されるブルジョワジーの理想的「人間性」と18世紀後半のゴシック小説に溢出する非理性的な「人間性」表象を比較し、「異質な他者との接触がもたらす近代主体の転回」の意義を実証的かつ理論的にまとめていくことを目的とした。

(1) 18世紀の小説を階級・人種・ジェンダーの問題系に沿ってまとめつつ、旅のもつ特殊性をその先行作品からの影響関係を見据えて論じることにより、従来の小説研究に新たな知見を与えることを目指す。

(2) 異質な他者との接触を近代的主体の「感受性」の変容の歴史と結びつけて検討することにより、様々な空間を横断する「共感」という座標軸を設定することを目標とする。これにより、従来ポスト・コロニアルな視点からのみ論じられてきた国境移動の問題を異質な他者の視点を含めてより多面的な形で議論することができるようになる。また、そこから、グローバルな18世紀研究の方向性を明確化すると同時に今日的意義を再確認することが可能となる。

(3) 近年のトラヴェルライティング研究の成果を踏まえ、「<小説>とは異なる領域のテキスト」を研究対象として組み入れる。具体的には、グランド・ツアーに関する実証的な歴史研究の成果や旅行記を題材にした映画アダプテーションの映像研究を本研究の分析対象とすることで、歴史学や芸術学等との学際的共同研究を推進することを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究では、名誉革命からワーテルローの戦いまでの期間を対象に、この時代の旅行記が様々な問題系を取り込みつつ、先行する旅行記をどのように更新してきたのかを歴史的に検証し、「旅行記研究」の新たな理論的枠組の提示を目指した。その際、*The Novel and the Sea* (Cohen 2010)の議論を補助線としつつ、従来のポスト・コロニアルな作品解釈を批判的に検証して、「グローバルな旅の文化を希求する小説」の起源を明らかにした。

(2) 18世紀旅行記に登場する異質な他者との接触体験が読者にどのような感情的転回をもたらしてきたのかという問題に答えるため、具体的な作品分析を通して、旅行記が更新されつづける今日的意義を実証的かつ理論的に探求した。

## 4. 研究成果

(1) 研究の第1段階では、『センチメンタル・ジャーニー』までの感受性文学を対象とし、感受性の多層性を明らかにするため、全体を通して旅行記を分析する方法論の検討を行った。まず、旅行者の身体/精神の相互関係を文学史に沿って明らかにするため、心身の変調に対する医学言説、生死をめぐる感覚論を精査した。道徳哲学では、「良心」をめぐる議論を取り上げ、共感に関する論考(ヒューム、スミス)と唯物論的機械論(ラ・メトリ)を検討し、世紀後半において、感受性の身体的重要性が高まっていく過程を確認した。次に、聖職者スターンの『説教集』を参照しつつ、旅行者の分類(外交官、商人、観光客等)の政治的意味を検討した。また、感受性文学研究には不可欠な熱狂の議論をメソディズムの流行と批判を軸に考察した。さらに、説教、パンフレット、書簡で用いられる語りのレトリックを分析し、スターンが提示する「事実」の虚構性を明らかにした。これらに加えて、国内外における旅行者の移動がもたらす経済的諸問題を整理した。旅行者の分類は、貿易、戦争、階級と密接に関係するが、さらには人種、国籍、都会/田舎、ジェンダー、セクシュアリティの問題へと広がっていく。こうした多様な問題意識を背景として抱える旅行者の感受性が「書く」ことによっていかに変容するのか、そして旅先で出会う異質な他者の感受性がいかにして共感されるのかを検証した。

(2) 研究の第2段階では、18世紀後半の旅行記として、ゴシック小説の嚆矢であるホレス・ウォルポールの『オトランドの城』とメアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』を主に分析対象とし、第一段階での成果を踏まえ、感受性に対する問題意識の歴史的变化を考察した。ゴシ

ック小説については、*Profane Illumination* (Cohen 1993)を参照し、異世界における超自然的な現象が生み出す恐怖の感受性が表す社会的ポリティックスを明らかにした。また、『フランケンシュタイン』においては、臓器の寄せ集めから生み出される生命、死に対する強迫観念から改造人間への期待と不安と雄弁な怪物の語りと見る／見られるの関係、さらには、創造主に一体化するフランケンシュタインの感受性と人間＝怪物の感受性のズレと共感、痛みと喜びの混合体としての感動をゴシック小説の政治性として捉え、これらを18世紀後半におけるホイッグ主義の革新性の源泉とみなす歴史的意義を明らかにした。本研究を遂行するに当たって、ヴァージニア大学のブラッド・パスネック教授との共同研究を実現し、長い18世紀におけるトラヴェル・ライティングの感受性表象について ASECS での学会発表にむけて準備を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 吉田直希	4. 巻 36
2. 論文標題 書評 D・エジントン『戦争国家イギリス—反衰退・非福祉の現代史』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヴァージニア・ウルフ研究	6. 最初と最後の頁 167-175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAOKI YOSHIDA	4. 巻 6
2. 論文標題 Female Gaze and Male Sensibility in A Sentimental Journey	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 18世紀イギリス文学研究	6. 最初と最後の頁 70-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉田直希
2. 発表標題 感じるジャコバイト—近代資本主義の小説的特質
3. 学会等名 日本英文学会東北支部 第73回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 菊池かおり、松永典子、齋藤一、大田信良、高田英和、吉田直希、大道千穂、大谷伴子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 301
3. 書名 アール・デコと英国モダニズム—20世紀文化空間のり・デザイン	

1. 著者名 松本朗、岩田美喜、木下誠、秦邦生	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 408
3. 書名 イギリス文学と映画	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------